

【会員だより】

短 15 回生 同窓会リレーエッセイ 診療放射線技師になって 15 年

西垣 允貴(短 15 回生)

私はかれこれ 15 年、大阪高槻市の社会医療法人北摂総合病院で勤務しております。今回近況報告をさせていただくにあたり、真面目な話は先輩方にお任せして、自分らしい報告をと思い書かせていただきました。

学生時代はドラマを叩いたり運動したり、好きなことをやり続けた 3 年間。正直、国家試験に受かると思っていなかったです。しかしながら、先生方のご指導のおかげで無事合格し、申し訳ないことに落ちた友達の穴埋めで当院を受験し(簡単な面接のみでした)、今に至ります。なるようになる、それが私の座右の銘です。

そして飽き性の私が今の病院を辞めない理由は、診療放射線技師の人間関係が最高なんです。同世代がかなり多いため、若い頃は仕事が終われば飲み、カラオケ、ボーリング。休みの日にはバーベキューなど私生活でも顔を合わせていました。各々が家庭を持ってからは帰る際に「じゃまた後で」と言い、家に帰ってからオンラインゲームをしたりして、遊んでばかりいます。楽しいです。

そんな私も技師になってはや 15 年。私が今から技師になろうとしている学生や、後輩たちに教えることができたとしたら、【コミュニケーション力を鍛えろ】です。コミュニケーションと言っても患者だけでなく、職員とくに他部署との関係性も必要です。私はコミュニケーションのおかげで、今や労働者代表の地位を獲得しました(本当はやりたくないんですが)。やはりどんな仕事においても、一人ではできません。いかに協力してもらえるかが仕事をより効率的に、より安全に行えるかという鍵になります。仕事はもちろん大事ですが、どうせ同じ仕事をするのですから、楽しく働ける方がいいと思っています。そのためには職場でのコミュニケーション・人間関係が非常に大事な要素です。

こんな幼稚な文章を書くような人間でも、技師歴 15 年・主任・労働者代表になれます。皆さん、自信を持って放射線技師として働いてください。新型コロナウイルス撲滅まであと少しのはず。身体を労りつつ、乗り切りましょう！

以上

*通巻 244 号 2022 年 7 月 10 日発行(2021-No.2 より)